

詩誌「炮氓」解題・総目次

一、概要

雑誌「炮氓」（ほうぼう）は、一九六八年九月に創刊され、一九七七年一二月の五一号まで続いた詩誌である。山田かんを中心とした長崎県内の詩人が集つて同人活動を行い、県外・同人外からも作品が寄せられた。

編集は一～四七号が山田かん、四八～五一号が入江昭三が務めた。一九三五年生まれの山田と一九三三年生まれの入江は同世代で、長崎原爆で被爆した山田は長崎県立長崎図書館で働きながら、満洲から引き揚げてきた入江は職を転々としながら創作を行つた。

一～三三号までは編集・発送・同人費の徴収など全ての事務を山田がを行い、発行所の炮氓社も山田宅であった。山田の多忙を理由に、三四号から編集事務の発行者を山田が、同人費などを扱う事務局を入江が分担するが、発行所は山田宅のままであった。四八号から終刊五一号までの約七ヶ月間に出了四号はすべて入江が担い、発

行所も入江宅に変更された。終刊号のあとがきは山田が書いていることから、山田が最後までの「炮氓」の中心的存在であった。

創刊号の奥付に「隔月刊」と記されているように、当初から継続的な刊行が意識されていた。原爆特集号として七月に刊行するためにあえて一月遅らせた一一号もあるが、終刊までの約九年間はほぼ隔月で刊行された。その苦労はたびたびあとがきで触れられるが、「書くことの意味を常に問いつめていなければならない」（八号あとがき）と山田はあくまで作品の質に気を配つた。表紙が創刊から終刊まで、誌名、刊行年月、号数、目次だけで、表紙絵がつかずカットさえなかつたことも作品本位の姿勢が窺える。

印刷所は一～三三号までは三和軽印刷工業有限会社。山田が以前編集していた詩誌「橋」の一三～一六号（終刊）と同じ印刷所であった。印刷費の値上げから三三号から昭和堂印刷に変更され、価格は非売だが、同人以外にも送つていた（一九号あとがき）。県

楠田剛士

内外の個人やグループから受贈された詩誌・詩集の紹介もしばしば行われた。同人費は月額七〇〇円で（八号から明記）、物価高騰・印刷費・郵送費の値上げから一〇〇〇円になり（二一号あとがき）、七六年一月からは一五〇〇円になった（四〇号あとがき）。四一号から一口二〇〇円の詩友制を導入し、同人外からの経済的な支援も受けた。誌友は五一号の時点で三八名で、鎌田定夫、栗原貞子、後藤みな子、中里喜昭、長岡弘芳、野呂邦暢らがいた。

二、詩誌「橋」と長崎県詩人会

誌名の「炮氓」は山田の造語である。創刊号のあとがきで山田は、「やかれたたみ」「炮烙の刑」に処せられた無辜の民を象徴として、この小さな詩誌の出発としたい」と説明し、「られる」とか「られた」とか「被」の受身ではなく、「一九四五年夏より二十三年後のいま」を「直視する目を磨くことの重要性を述べている。創刊からかなり経つてから掲載された会の内規でも「炮氓」は原爆に象徴される戦争の悲惨を凝視しつつ、未来への展望を拓こうとする同人によって構成される（四五号）と書かれている。

原爆を過去の問題ではなく「いま」の問題としてとらえようと「凝視」する山田の姿勢は創刊から一貫している。さらにいえば「炮氓」以前から続くものである。サークル誌「芽だら」（五二～五九年）、文学同人誌「地人」（五五～五八年）、詩誌「橋」（六一～六五年）に参加し、詩と評論で原爆問題を繰り返し書いてきた。「橋」を編集していた山田は、「炮氓」を「橋」の後継誌と位置づけ、「今度は「橋」などとあいまいな誌名でなく、明確な理念の内容を表現

している表題を作ろうと種々考えた」（二三号あとがき）と述べている。確かに「橋」の会則には「本会は、自己の主体性と必然性をもつて詩に全ての生命を燃焼させようと志向するものの拠点である」（橋一号、一九六一年一〇月）とあり、先の「炮氓」の内規がいかに原爆・戦争を意識したものかがわかる。

「炮氓」には原爆以外にも多様な作品が掲載されたが、反原爆や戦争体験に関わる作品はほぼ毎号見られる。一一号で被爆二五年特集、二八号で二八年特集、三八号で三〇年特集を組み、また特集の形ではなくても夏前には作品投稿を呼びかけた。「炮氓」掲載作から山田が選んだものが、太平出版社から刊行された『日本原爆詩集』（一九七〇）に再録されている。

「橋」から原爆というテーマを継続をする一方で、山田は「以前の「橋」の同人は意識して参加を求めなかつた。それが当初からの出発の方針であつた」（二三号あとがき）とも述べ、あくまでも新しい詩誌として始めたことを強調している。ただし「橋」の執筆者が、全く「炮氓」に書かなかつたわけではなく、伊福重一、風木雲太郎、塚本貞一、深江福吉、山脇敏宏、横山隆らが、しばらく経つてから「炮氓」に作品を寄せている。

新しい同人として注目したいのは、長崎県詩人会の詩人たちである（東佐和子、池田慶子、伊福重一、今長宣子、入江昭三、上滝望觀、風木雲太郎、木下和郎、木本昭彦、塚本貞一、福江福吉、藤維夫、山口宏、山田かん）。長崎県詩人会は、六四年に長崎県立長崎図書館で結成された。図書館に務めていた山田が幹事長となり、会員のアンソロジーである『66長崎詩集』の編集も担当した。ここで関わることができた詩人たちに「炮氓」への参加を促したのだと考えられる。

詩集の力バー装丁は写真家の原田正路だが、「炮氓」四六号は原田の写真特集を組んでおり、ここにも詩人会との関わりが見られる。山田は『'66長崎詩集』のあとがきで、「長崎県における詩文学創造活動の現況」を「記録に刻み付ける」意味を述べている。六八年から始まる「炮氓」も、先に引用したように「一九四五年夏より二十三年後のいま」を「直視する目」（創刊号あとがき）としての記録性が意識されている。ただし、詩集に関して山田は「参加者の面で充分に成功したとは云えない」（『'66長崎詩集』あとがき）と不満があつたようで、後年の回想でも「今だに苦い思いをするのは、この詩集に参加者をも含めて幹事たちも親身の協力関係がなかつたことであつた」（長崎における反原爆の表現——現代詩にみる系譜（九）、「炮氓」二三号）とも述べており、こうした編集の苦い経験から、「炮氓」では積極的に「協力関係」を求めたのだと考えられる。高い創作意識を持つた人々の「炮氓」への参加は、掲載された作品の、やや難解で観念的ともいえる傾向に反映している。

こうして「橋」からテーマを引き継ぎ、長崎県詩人会からの書き手の参加から始まつた「炮氓」は少しずつ同人を増やしながら、長崎県内外の詩人のネットワークを形成していく。

三、同人活動の展開

原爆・戦争が大きなテーマだったとはいえ、それだけが「炮氓」に掲載されたわけではない。宮原隆之助は小児麻痺の娘について、入江昭三は大陸での孤児体験・引揚体験についての作品を多く残し、中川弘美は廃坑という新しいテーマを雑誌にもたらした。のち

に浦上燔祭説批判で知られる高橋真司も、城取真司のペソネームで詩を書いたり、本名で評論を書いたりしている。同人外では、中里喜昭（一三、二八、四三、四四号）、栗原貞子（一四、二八号）、野呂邦暢（三八、五〇号）の寄稿が注目できる。

初期の同人は、山田と同世代の、戦争を体験した者が多かつたが、「炮氓」発行当時三〇代後半から四〇代にあたり、それぞれの仕事や家庭の事情を反映する作品や、出産や引っ越しに伴う同人の異動があつた。創刊時から今長宣子、東佐和子ら女性の書き手が積極的に書き、のちに紅河知沙、島田とも子、中原宏子、柳生じゅん子らが加わった。

新同人は一九号（七二年一月）頃から増加し、それに伴つて二二号から同人名簿が掲載されるようになつた。二一号までは詩は一段組み、エッセイは二段組みだが、二二号からは詩も二段組みとなつている。同人が増え、より多くの作品を掲載するためであろうが、掲載ページにかかる印刷費をおさえるための方策でもあつただろう。また、雑誌を発行した後、合評会を行い、その記録を次号に掲載していたことも主な同人活動となつていた。はじめは山田の自宅や県立図書館で行われることが多かつたが、諫早、佐世保、島原の同人が増えてくると各地から集まりやすい諫早で行うこともあつた（二七号）。その他、同人消息欄は三四号から始まり、「炮氓」以外での同人の活動を紹介する。受贈詩誌、詩集の紹介は二九号から始まり、その数を増やしていく。

こうした活発な会のあり方は山田にも刺激を与えたようだ。『'66長崎詩集』出版以来一〇年ぶりのアンソロジー企画を立ち上げ（三二号あとがき）、同人が多く参加した『'75長崎詩集』を刊行した。

三六号あとがきでは、「次三十七号に若い世代の作品を発表する予定である。(略) 同人消息にも見えるが、他誌へも積極的に出していく同人が増えている。実力を備えて良い作品へ精進して欲しい」と述べ、若い書き手や「炮氓」以外での同人活動を後押ししている。さらに雑誌で取り上げるテーマも拡大した。例えば、鎌田信子の翻訳掲載について「(※「炮氓」は) 枠を限定すべきでないし出来れば広範なスタイルを包括したいと願っている」(二〇号あとがき)と述べ、山田の妻の香月和子による平和教育のエッセイについて「詩誌としては外れていると思うが、雑誌の存在理念としてもあることであり」「詩誌の枠をあえて破つて載せることにした」(二〇号あとがき)と述べ、中川弘美の廃坑というテーマについて「炮氓」の意味するものと、廃坑の問題は同次元においても捉えられると思つてゐる」(三一号)と述べるなど、積極的にテーマを広げようとしている。四二号のあとがきでも、「こうして同人間のみに閉鎖することなく、詩誌をひとつ表現の場として展げていくことも、ひいては詩誌の活動の場を底部より振り醒し、常に新しく見つめ直すことのよがとなるだろう」と、同人とのテーマの拡大を評価する。

しかし実際にはそれを続けることは難しかつたようだ。鎌田も香月も一回だけの掲載に終わり、中川も入院に伴い退会する。一七号の発行遅れが「編集者の多忙と共に、「原爆の問題にテーマを据えて」という希みが原稿の集りをぶらせたようである」(一七号あとがき)と述べてもいるように、詩における原爆作品は少なくなつていく。同人の増加や、「炮氓」外での活動の活発化は、雑誌の充実ぶりを示す反面、出発にあつた原爆というテーマの希薄化を映し出すものでもあつた。

やがて同人の盗作問題が起り、「炮氓」は終刊を迎える。本誌において問題は触れられておらず、山田の後年の回想でも明確に述べているわけではないが、「編集者」として、そういうものを発見できなかつたという恥ずかしさがありました。それで、自分自身で「炮氓」を解体するしかなかつた」と終刊事情を説明している(絞説編集部「インタビュー 記憶の固執……山田かん氏に聞く」「絞説」一九、一九九九・八)。

苦しい結末を迎えたが、「炮氓」が山田にもたらしたのはそれだけではないだろう。山田には私家版や全詩集も含めて九冊の詩集があるが、「炮氓」を編集発行していた期間に、「記憶の固執」(一九六九)、「ナガサキ・腐食する暦日の底で」(一九七二)、「アスフルに仔猫の耳」(一九七五)の三冊を刊行し、「記憶の固執」で第一回長崎県文芸賞を受賞した。終刊後に出了した『予感される闇』(一九八二)は「炮氓」掲載の詩を収録している。評論においても「炮氓」に連載した「長崎における反原爆表現——現代詩による系譜」が、八四年に『長崎・詩と詩人たち——反原爆表現の系譜』(汐文社)にまとめられ、長崎の戦後詩史、原爆文学史として現在も重要な書となつてゐる。山田の永井隆批判としてよく知られる「聖者・招かざる代弁者」も、雑誌「潮」一九七二年七月号に発表されている。「炮氓」の刊行期間は、山田の詩作・評論における充実期にあつた。原爆問題の忘却に抗い続けた山田かんの仕事は「炮氓」抜きに考えることはできない。

凡例

一、本総目次は、「炮弾」所収の文章を掲載された順序で作成したものである。「炮弾」五一号の総目次は略記部分があるため、本総目次では全ての作品、エッセイの標題を掲載し、広告も原則掲載した。

一、原本の号数は表紙と奥付では「N.O.」で表記されるが、本文中では「□号」と表記されるため、本総目次では便宜上「第□号」とした。

一、特集がある場合は、号数、発行年月日に統けて記した。

一、各項目は、基本的に分類、標題、著者名、掲載頁の順で記し

詩 誌

炮弾

■作品

宮原 隆之助
幻の寺院
背後のもの
今長宣子
病気とは……
夏が冰る
瀬戸 邦
海
山田かん
とおくへ消えた

■エッセイ・墓地にて
あとがき

1968.9 創刊号

た。標題や副題が表紙目次と本文表記で異なる場合は本文表記に拠った。

一、掲載が二頁以上にわたる場合は、開始頁・終了頁としている。別の頁に飛ぶ記事については、読点に統けてもう一つの頁数を記した。

一、あとがきは署名があるものは記したが、無署名は山田かんによるものである。

一、*は編者による注記。

※本総目次は、故山田かん氏所蔵の原本資料を借用し作成された。閲覧の便宜をはかつてくださった山田貴己氏に記して感謝申し上げます。

編集

山田かん 長崎県西彼杵郡長与村西田原田地三三二山田
かん方（一・四七号）

入江昭三 長崎県諫早市福田町二八二八・四（四八・
五一号）

炮弾社（八号から記載）

三和印刷工業有限会社（一・三二・号）

昭和堂印刷（三三・五一号）

発行
印刷所

同人

頒布

非買

東佐和子、池田慶子、伊崎周介、伊福重一、今長宣子、
今村冬三、入江昭三、上滝望觀、熊田力、紅河知沙、
古藤正和、島田とも子、瀬戸昂、高橋真司、たけした
しげる、都築修三、中川弘美、中原宏子、西敏男、平

島礼二、藤維夫、松島章子、宮原隆之助、向井治、梁井馨、山口宏、柳生淳子、山田かん、山本まこと、横山隆

*2が表紙裏。

詩友

(*熊田、高橋、たけした、梁井は詩友に移行)

澤村光博、早川雅之、小国力、栗原貞子、森崎昭生、中里喜昭、鎌田定夫、細川章、熊田力、佐藤香、松岡昭彦、板井蓮生、塚本貞一、タマキケンジ、坂井信夫、青井孤人、長岡弘芳、柏木恵美子、入江勇、大石健、田中礼次郎、浜崎均、木下豊房、田中俊廣、逢坂収、瀬洋爾、松隈一輝、松本武司、高野弓子、小林緑明、後藤みな子、野呂邦暢、竹下茂、江口宣、植田昇、広江島弘美、梁井馨、高橋真司

(*五一号に掲載された詩友名簿による)

第一号（創刊号） 一九六八年九月一五日 発行

作品

幻の寺院 宮原隆之助
背後のもの 宮原隆之助
病気とは 今長宣子
夏が冰る 今長宣子
とおくへ消えた 山田かん
海 濑戸昂
墓地にて 山田かん

エッセイ
あとがき
奥付

山田かん

16	14	12	9	6	4	2
-	-	-	-	-	-	-
17	17	16	13	11	8	7

第三号 一九六九年一月一五日 発行

作品

運動へ 運動へ
盜み 盗み
鳥の伝説 鳥の伝説
門のよう に
詩人よ、 答えよ
帰路 帰路
五人の子供達 五人の子供達
—古川賢一郎覚書その後 —古川賢一郎覚書その後

エッセイ
あとがき

山田かん

14	12	9	5	4	2	1
-	-	-	-	-	-	-
20	20	13	11	8	5	3

第二号 一九六八年一一月二五日 発行

作品

入江昭三 今永宣子 宮原隆之助 山田かん
むかしがたり むこうに行くとき 悼むうた 童話III
遠い聲音 行こか戻るか
エッセイ
あとがき
奥付
今永宣子は今長宣子のこと。以下同じ。

12	10	6	4	1
-	-	-	-	-
15	15	14	11	9

奥付

第四号 一九六九年四月一五日 発行

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

長い道を……

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

第六号 一九六九年八月二十五日 発行

作品

癌患者

今永宣子

蝶断章

海蝕

かまきり

飢餓の記憶

女・鳥の首

山口宏詩集『風象』・評

広告

エッセイ
あとがき

象徴の解体

燎原同人総会のお知らせ

案内、広告

山田かん詩集エッセイ集『記憶の固執』

奥付

第七号 一九六九年一〇月二十五日 発行

作品

へののもへじの唄

死に関する断片——父に——

日常

糸瓜

体験なんて?!

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

奥付

エッセイ
広告
あとがき

奥付

第四号

作品

遭遇

お願いですから……

西坂の丘

あるプロローグから

十五才の就職

最後のとき

広告

エッセイ

上村肇第二詩集『みづうみ』に寄せて

奥付

第五号 一九六九年六月二十五日 発行

作品

長恨歌

拒む風景の中で

こんな具合に

倒壊または独りの唄

遠近の因

山口宏詩集『風象』

あとがき
奥付

第八号 一九六九年一二月三一日 発行

作品 夏に逝つた友に

入江昭三詩集『呪縛』

中原宏子

作品 掌の中の地図

宮原隆之助

作品 山口宏詩集『風象』

中原宏子

作品 いん・ぱれすちな

入江昭三

作品 山田かん詩集エッセイ集『記憶の固執』

入江昭三

作品 だれも なんにも

入江昭三

作品 ねおるいじんえん

入江昭三

復興 境界線

入江昭三

半島

中原宏子

あとがき
奥付

*18はノンブル無し。

第九号 一九七〇年二月二五日 発行

作品 この川の匂い—浦上川—

旅立ち なぞなぞ

東佐和子
宮原隆之助
中原宏子

7 4 1
— 6 3

裏表紙裏
裏表紙

16 14
18 15

11 9
13 12

6 8
8 5

3 5
5 2

1 2

裏表紙裏
裏表紙

15

哀愁の友にウイスキーを
眺めている

第一〇号 一九七〇年四月二五日 発行

作品

森林伝説

入江昭三

中原宏子

作品 パントマイム・混沌

山口宏

作品 サヨナラのうた

宮原隆之助

作品 人物柱I

中原宏子

作品 断片連続的……(*そのII)

山口宏

作品 あはれあはれの挽歌がきこえる

山田かん

作品 人物柱I

中原宏子

作品 東佐和子

山口宏

作品 宮原隆之助

中原宏子

作品 山田かん

中原宏子

作品 入江昭三

山口宏

作品 宮原隆之助

中原宏子

第一五号	一九七一年四月二〇日	発行	呪文	中原宏子	16
作品	チハルねえちゃんのこと	椿	中原宏子	宮原隆之助	22
奥付	無題	記憶の手	山口宏	今長宣子	16
あとがき	長崎における反原爆の表現	—現代詩による系譜（二）	東佐和子	山田かん	14
あとがき	あとがき	山田かん	今長宣子	東佐和子	12
奥付	椿	記憶の手	山口宏	今長宣子	10
第一六号	一九七一年六月二十五日	発行	エッセイ	宮原隆之助	8
作品	児童憲章	宮原隆之助	山田かん	山田かん	8
地動説	わが歳時記—春の章	入江昭三	今長宣子	今長宣子	6
夜から朝	癪癪のかお	今長宣子	山田かん	山田かん	5
ナガサキ迷路	山田かん	山田かん	山田かん	山田かん	4
時の構図	山田かん	山田かん	山田かん	山田かん	3
16	14	12	10	8	1
17	15	13	11	9	7
作品	第一七号	一九七一年九月二〇日	発行	作品	16
秋と子の四題	裏表紙	のこされた	のこされた	裏表紙	22
山口宏	11	6	6	11	22
山田かん	22	5	7	22	22
山田かん	8	4	5	8	16
山田かん	10	1	10	10	14
山田かん	12	1	12	12	12
山田かん	13	1	13	13	13
山田かん	14	1	14	14	14
山田かん	15	1	15	15	15
山田かん	16	1	16	16	16
山田かん	17	1	17	17	17
山田かん	18	1	18	18	18
山田かん	19	1	19	19	19
山田かん	20	1	20	20	20
山田かん	21	1	21	21	21
山田かん	22	1	22	22	22
山田かん	23	1	23	23	23
山田かん	24	1	24	24	24
山田かん	25	1	25	25	25
山田かん	26	1	26	26	26
山田かん	27	1	27	27	27
山田かん	28	1	28	28	28
山田かん	29	1	29	29	29
山田かん	30	1	30	30	30
山田かん	31	1	31	31	31
山田かん	32	1	32	32	32
山田かん	33	1	33	33	33
山田かん	34	1	34	34	34
山田かん	35	1	35	35	35
山田かん	36	1	36	36	36
山田かん	37	1	37	37	37
山田かん	38	1	38	38	38
山田かん	39	1	39	39	39
山田かん	40	1	40	40	40
山田かん	41	1	41	41	41
山田かん	42	1	42	42	42
山田かん	43	1	43	43	43
山田かん	44	1	44	44	44
山田かん	45	1	45	45	45
山田かん	46	1	46	46	46
山田かん	47	1	47	47	47
山田かん	48	1	48	48	48
山田かん	49	1	49	49	49
山田かん	50	1	50	50	50
山田かん	51	1	51	51	51
山田かん	52	1	52	52	52
山田かん	53	1	53	53	53
山田かん	54	1	54	54	54
山田かん	55	1	55	55	55
山田かん	56	1	56	56	56
山田かん	57	1	57	57	57
山田かん	58	1	58	58	58
山田かん	59	1	59	59	59
山田かん	60	1	60	60	60
山田かん	61	1	61	61	61
山田かん	62	1	62	62	62
山田かん	63	1	63	63	63
山田かん	64	1	64	64	64
山田かん	65	1	65	65	65
山田かん	66	1	66	66	66
山田かん	67	1	67	67	67
山田かん	68	1	68	68	68
山田かん	69	1	69	69	69
山田かん	70	1	70	70	70
山田かん	71	1	71	71	71
山田かん	72	1	72	72	72
山田かん	73	1	73	73	73
山田かん	74	1	74	74	74
山田かん	75	1	75	75	75
山田かん	76	1	76	76	76
山田かん	77	1	77	77	77
山田かん	78	1	78	78	78
山田かん	79	1	79	79	79
山田かん	80	1	80	80	80
山田かん	81	1	81	81	81
山田かん	82	1	82	82	82
山田かん	83	1	83	83	83
山田かん	84	1	84	84	84
山田かん	85	1	85	85	85
山田かん	86	1	86	86	86
山田かん	87	1	87	87	87
山田かん	88	1	88	88	88
山田かん	89	1	89	89	89
山田かん	90	1	90	90	90
山田かん	91	1	91	91	91
山田かん	92	1	92	92	92
山田かん	93	1	93	93	93
山田かん	94	1	94	94	94
山田かん	95	1	95	95	95
山田かん	96	1	96	96	96
山田かん	97	1	97	97	97
山田かん	98	1	98	98	98
山田かん	99	1	99	99	99
山田かん	100	1	100	100	100
山田かん	101	1	101	101	101
山田かん	102	1	102	102	102
山田かん	103	1	103	103	103
山田かん	104	1	104	104	104
山田かん	105	1	105	105	105
山田かん	106	1	106	106	106
山田かん	107	1	107	107	107
山田かん	108	1	108	108	108
山田かん	109	1	109	109	109
山田かん	110	1	110	110	110
山田かん	111	1	111	111	111
山田かん	112	1	112	112	112
山田かん	113	1	113	113	113
山田かん	114	1	114	114	114
山田かん	115	1	115	115	115
山田かん	116	1	116	116	116
山田かん	117	1	117	117	117
山田かん	118	1	118	118	118
山田かん	119	1	119	119	119
山田かん	120	1	120	120	120
山田かん	121	1	121	121	121
山田かん	122	1	122	122	122
山田かん	123	1	123	123	123
山田かん	124	1	124	124	124
山田かん	125	1	125	125	125
山田かん	126	1	126	126	126
山田かん	127	1	127	127	127
山田かん	128	1	128	128	128
山田かん	129	1	129	129	129
山田かん	130	1	130	130	130
山田かん	131	1	131	131	131
山田かん	132	1	132	132	132
山田かん	133	1	133	133	133
山田かん	134	1	134	134	134
山田かん	135	1	135	135	135
山田かん	136	1	136	136	136
山田かん	137	1	137	137	137
山田かん	138	1	138	138	138
山田かん	139	1	139	139	139
山田かん	140	1	140	140	140
山田かん	141	1	141	141	141
山田かん	142	1	142	142	142
山田かん	143	1	143	143	143
山田かん	144	1	144	144	144
山田かん	145	1	145	145	145
山田かん	146	1	146	146	146
山田かん	147	1	147	147	147
山田かん	148	1	148	148	148
山田かん	149	1	149	149	149
山田かん	150	1	150	150	150
山田かん	151	1	151	151	151
山田かん	152	1	152	152	152
山田かん	153	1	153	153	153
山田かん	154	1	154	154	154
山田かん	155	1	155	155	155
山田かん	156	1	156	156	156
山田かん	157	1	157	157	157
山田かん	158	1	158	158	158
山田かん	159	1	159	159	159
山田かん	160	1	160	160	160
山田かん	161	1	161	161	161
山田かん	162	1	162	162	162
山田かん	163	1	163	163	163
山田かん	164	1	164	164	164
山田かん	165	1	165	165	165
山田かん	166	1	166	166	166
山田かん	167	1	167	167	167
山田かん	168	1	168	168	168
山田かん	169	1	169	169	169
山田かん	170	1	170	170	170
山田かん	171	1	171	171	171
山田かん	172	1	172	172	172
山田かん	173	1	173	173	173
山田かん	174	1	174	174	174
山田かん	175	1	175	175	175
山田かん	176	1	176	176	176
山田かん	177	1	177	177	177
山田かん	178	1	178	178	178
山田かん	179	1	179	179	179
山田かん	180	1	180	180	180
山田かん	181	1	181	181	181
山田かん	182	1	182	182	182
山田かん	183	1	183	183	183
山田かん	184	1	184	184	184
山田かん	185	1	185	185	185
山田かん	186	1	186	186	186
山田かん	187	1	187	187	187
山田かん	188	1	188	188	188
山田かん	189	1	189	189	189
山田かん	190	1	190	190	190
山田かん	191	1	191	191	191
山田かん	192	1	192	192	192
山田かん	193	1	193	193	193
山田かん	194	1	194	194	194
山田かん	195	1	195	195	195
山田かん	196	1	196	196	196
山田かん	197	1	197	197	197
山田かん	198	1	198	198	198
山田かん	199	1	199	199	199
山田かん	200	1	200	200	200
山田かん	201	1	201	201	201
山田かん	202	1	202	202	202
山田かん	203	1	203	203	203
山田かん	204	1	204	204	204
山田かん	205	1	205	205	205
山田かん	206	1	206	206	206
山田かん	207	1	207	207	207
山田かん	208	1	208	208	208
山田かん	209	1	209	209	209
山田かん	210	1	210	210	210
山田かん	211	1	211	211	211
山田かん	212	1	212	212	212
山田かん	213	1	213	213	213
山田かん	214	1	214	214	214
山田かん	215	1	215	215	215
山田かん	216	1	216	216	216
山田かん	217	1	217	217	217
山田かん	218	1	218	218	218
山田かん	219	1	219	219	219
山田かん	220	1	220	220	220
山田かん	221	1	221	221	221
山田かん	222	1	222	222	222
山田かん	223	1	223	223	223
山田かん	224	1	224	224	224
山田かん	225	1	225	225	225
山田かん	226	1	226	226	226
山田かん	227	1	227	227	227
山田かん	228	1	228	228	228
山田かん	229	1	229	229	229
山田かん	230	1	230	230	230
山田かん	231	1	231	231	231
山田かん	232	1	232	232	232
山田かん	233	1	233	233	233
山田かん	234	1	234	234	234
山田かん	235	1	235	235</td	

作品

March out

双脚のうみの歌

冬の狼

蚯蚓

花の笑い

仲秋

醜聞

秋の一日

作つた方が得だ

路上

秋のかたちについて

飛ぶ跳ぶ

現代詩について

受贈詩誌

エッセイ

別府の暑い夏

第三回九州詩人祭参加の記

風信

あとがき

同人住所録

奥付

作品

新年のことば—体験と想像

廃坑へ

はも女 子守唄

波止場について

彼方—J・コルトレーンに

船が出る朝

借りたもの

かまきり

（ルアン）にて

多良と娘と彗星と

今村冬三

山本まこと

入江昭三

伊福重一

猿

椿

空

ここと

霧水

夕暮のしんじつの昏さ

遺書

雑感

ある吐血

作品

エッセイ

受贈詩誌

あとがき

同人住所録

奥付

反原爆の表現の一背景—山田かん・その人の固執

山口宏

そのときのために

祝日

空

或る春の日に

認識

村のさみだれ

エッセイ

あくら話

投壇手帳

受贈詩集

エッセイ

長崎における反原爆の表現

—現代詩による系譜（一四）

あとがき

奥付

第三三号 一九七四年八月一〇日 発行

山本まこと
中原宏子
山口宏
東佐和子
梁井馨
中川弘美
たけしたしげる
山本まこと

城取真司

孤独を梃子にして
げんばく・兄

伊福重一

北松・小値賀島へ

海牛
ふいご

たけしたしげる

たけしたしげる

○氏の日常

局外者の位置

エッセイ

北松・小値賀島へ

長崎における反原爆の表現

—自身のためのメモランダム—

中川弘美

炭坑仕事唄に探る女性像

—私自身のためのメモランダム—

中川弘美

長崎における反原爆の表現

—自身のためのメモランダム—

中川弘美

長崎における反原爆の表現

城取真司

伊福重一

たけしたしげる

たけしたしげる

山田かん

山本まこと

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

作品

白い闇

薄緑色の窓の向う

石のほほえみについて

爪よ

尾羽を他国に打ち枯らす

エドワルド・ムンク嫌い

酩酊の余地

受贈詩集

エッセイ

長崎における反原爆の表現

—現代詩による系譜（一四）

あとがき

エッセイ

奥付

第三三号

一九七四年八月一〇日

発行

10

11

12

13

14

15

16

17

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

第三四号

一九七四年一〇月一五日

発行

作品

ちいさまよ

私情

夏のおわりに

灰色の兵士

そして昏い夏について

上滝望観

横山隆

梁井馨

山本まこと

中原宏子

山本まこと

山本まこと

山本まこと

城取真司

伊福重一

たけしたしげる

山本まこと

7

8

9

10

11

12

13

14

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

裏表紙

裏表紙

裏表紙

裏表紙

裏表紙

裏表紙

裏表紙

裏表紙

エッセイ	カンボジヤの飯盒	山田かん	K	27
同人住所録	あとがき			28
奥付				28
作品	広告	山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』	表紙裏	27
同人消息	作品	男	裏表紙裏	28
冬の朝	受贈詩集	藤維夫	裏表紙	27
午後のうらぎりについて	エッセイ	紅河知沙	裏表紙裏	28
雪が降る夜の序詩	受贈詩誌	K	裏表紙	27
作品	第三十五号合評会の記	宮原隆之助	表紙裏	28
同人消息	葉書	山口宏	エッセイ	27
冬の朝	飛竜の夢なけれど……	山本まこと	同人住所録	28
午後のうらぎりについて	比良山にて	中原宏子	あとがき	27
雪が降る夜の序詩	息子へのバーラード	梁井馨	奥付	28
作品	否の波紋	城取真司	広告	27
同人消息	冬の朝	東佐和子	第三七号	28
作品	上滝望觀詩集、	上滝望觀	一九七五年四月二十五日 発行	27
同人消息	山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』	山田かん	22	20
冬の朝	こんにやく舌頌	山田かん	21	19
午後のうらぎりについて	採桑老	山田かん	21	19
雪が降る夜の序詩	スフ、プロファイル	山田かん	20	18
作品	長崎詩集一九七五年版の刊行について	山本まこと	22	18
同人消息	腐臭	山本まこと	22	17
冬の朝	無言歌	山本まこと	21	17
午後のうらぎりについて	長崎詩集一九七五年版の刊行について	山本まこと	20	16
雪が降る夜の序詩	腐臭	山本まこと	19	16
作品	無言歌	山本まこと	18	16
同人消息	長崎詩集一九七五年版の刊行について	山本まこと	17	16
冬の朝	腐臭	山本まこと	16	16

エッセイ 作品 作品	一日について 道 この橋に続くべき一本の道 虫のようない	ステレオ 第三十六号合評会記録 受贈詩誌、受贈詩集 この橋に続くべき一本の道	横山隆 中原宏子 伊福重一 藤維夫 東佐和子 山口宏 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6
同人消息 作品 作品	悲しみへの墮落 にっぽんの首相 レストランにて 裸踊断章 湯治場で 日曜 COCa - COL.a 風よ吹け 空間 神などについて ちすかばじやぱん	同人消息 悲しみへの墮落 にっぽんの首相 レストランにて 裸踊断章 湯治場で 日曜 COCa - COL.a 風よ吹け 空間 神などについて ちすかばじやぱん	横山隆 中原宏子 伊福重一 藤維夫 東佐和子 山口宏 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6
エッセイ 作品 作品	城取真司 島田とも子 梁井馨 伊福重一 赤瀬信吾 堂脇敬子 山田千秋 蘭田美穂子 上滝望観 今村冬三	城取真司 島田とも子 梁井馨 伊福重一 赤瀬信吾 堂脇敬子 山田千秋 蘭田美穂子 上滝望観 今村冬三	横山隆 中原宏子 伊福重一 藤維夫 東佐和子 山口宏 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6
エッセイ 作品 作品	城取真司 島田とも子 梁井馨 伊福重一 赤瀬信吾 堂脇敬子 山田千秋 蘭田美穂子 上滝望観 今村冬三	城取真司 島田とも子 梁井馨 伊福重一 赤瀬信吾 堂脇敬子 山田千秋 蘭田美穂子 上滝望観 今村冬三	横山隆 中原宏子 伊福重一 藤維夫 東佐和子 山口宏 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6
エッセイ 作品 作品	広告 虹 残痕 戦後三十年の歳月 同情は遠く蹴り捨てて 絶望なんかしなくなつたつて…… 詩精神は向きあえたか —長崎被爆三十年の状況— 山田かん	第三八号 一九七五年七月三一日 発行 —長崎被爆と戦後三十年の生を問う— 上滝望観詩集、 山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』 野呂邦暢 山口宏 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6	山田かん 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6
エッセイ 作品 作品	受贈詩誌、受贈詩集 おれの優雅な帰り途 きりぎりす —長崎被爆三十年の状況— 山田かん	第三八号 一九七五年七月三一日 発行 —長崎被爆と戦後三十年の生を問う— 上滝望観詩集、 山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』 野呂邦暢 山口宏 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6	山田かん 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6
エッセイ 作品 作品	宮原隆之助 池田慶子 今村冬三	表紙裏 裏表紙 33 33 33	山田かん 7、 16、 6、 7、 5、 7、 6、 5、 7、 6、 7、 6
エッセイ 作品 作品	23 21 19 17 25 22 20 18 16 15 15 14 13 12 11 11 27 25 22 20 20 18 16 15 15 14 13 12 11 11	27 26 12 29 28 27 25 25 30 29 28 27 25	28 33 33 33

* 33が裏表紙裏。

セイにふれて—

山田かん

虚脱の対比について

荼毘

雨期に

墓標

うかばれぬ

短艇をこぐ

飢餓の海

第三十七号合評会の記録

エツセイ

雪の晩に

塔について

九州詩人祭始末記

同人消息

エツセイ

同人名簿

あとがき

広告

一九七五年九月三〇日 発行

広告

上滝望観詩集、

山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』

作品

もつたない

一日の終り

太郎の神さま

たけしたしげる

山口宏

島田とも子

藤維夫

横山隆

城取真司

入江昭三

島田とも子

伊福重一

山田かん

入江昭三

島田とも子

伊福重一

山田かん

長崎詩人会編『長崎詩集一九七五年版』

奥付

あとがき

広告

長崎県詩人会編『長崎詩集一九七五年版』

作品

何

横山隆

入江昭三

藤維夫

上滝望観

河口まで

きめのこまかに詩

島田とも子

たけしたしげる

たけしたしげる

6

7

7

6

7

6

7

6

7

6

7

6

7

6

7

6

7

6

7

島田とも子

たけしたしげる

たけしたしげる

たけしたしげる

8

9

9

10

9

10

9

10

9

10

9

10

9

10

9

10

9

10

9

10

5

6

6

6

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

5

22

うすあかりの路	外	エッセイ	三十九号作品寸評	三十九号作品寸評	外	うすあかりの路
藤維夫	横山隆	宮原隆之助	宮原隆之助	横山隆	藤維夫	上滝望観
入江昭三	紅河知沙	今村冬三	今村冬三	入江昭三	火の窓	火の窓
事務局	伊福重一	田中礼治郎	田中礼治郎	事務局	冬へ	冬へ
城尾徳昭	伊福重一	伊福重一	伊福重一	城尾徳昭	状態	状態
山田かん	山田かん	山田かん	山田かん	山田かん	詩人・今田久さんのこと	詩人・今田久さんのこと
エッセイ	私の中の長崎	十月・藏王の水Ⅱ	せんそう	エッセイ	火の窓	火の窓
フリー号船長ムーグ氏のこと	長崎における反原爆の表現	長崎の中の長崎	蜂蜜	フリー号船長ムーグ氏のこと	空気の椅子(その一)	空気の椅子(その一)
城取真司	城尾徳昭	城尾徳昭	車窓に倚れば	城取真司	島田とも子	島田とも子
25	23	18	個体の夏	25	森義男	森義男
42	41	23	光耀のなかに	41	藤維夫	藤維夫
裏表紙裏	裏表紙裏	17	車窓に倚れば	42	上滝望観	上滝望観
裏表紙	裏表紙	16	個体の夏	42	横山隆詩集	横山隆詩集
作品	作品	16	光耀のなかに	42	はこべらのうた—わが子への書きおき—	はこべらのうた—わが子への書きおき—
同人消息	友人Hへの返信	15	車窓に倚れば	42	表紙裏	表紙裏
同人名簿	少年のいる町	14	個体の夏	42	1	1
あとがき	誌友制の発足について	13	光耀のなかに	30	6	6
奥付	今村冬三	12	車窓に倚れば	29	7	7
広告	東佐和子	11	個体の夏	28	8	8
山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』、長崎県詩人会編『長崎詩集一九七五年版』	山田かん	10	光耀のなかに	27	9	9
弱るばかりの母	宮原隆之助	9	車窓に倚れば	25	10	10
断章(1)、断章(2)	横山隆	8	個体の夏	23	11	11
白馬の天皇	池田慶子	7	光耀のなかに	22	12	12
満ちる	山田かん	6	車窓に倚れば	21	13	13
満ちる	伊福重一	5	個体の夏	20	14	14
弱るばかりの母	田中礼治郎	4	光耀のなかに	18	15	15
断章(1)、断章(2)	池田慶子	3	車窓に倚れば	17	16	16
白馬の天皇	伊福重一	2	個体の夏	17	17	17
満ちる	山田かん	1	光耀のなかに	17	18	18
満ちる	田中礼治郎	0	車窓に倚れば	17	19	19

エッセイ

やさしく誠実な遺失物係——横

山隆詩集「はこべらのうた」——今村冬三

おくんちの日のバーバラ・レインルズ

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

同人消息

あとがき

三十年目の溯行

城取真司

山田かん

34
35

—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

第四二号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

三十九号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十一号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十二号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十三号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十四号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十五号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十六号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十七号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十八号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

四十九号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

五十号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

五十一号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

五十二号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

五十三号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

五十四号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

五十五号

城取真司

山田かん

38
36
34

—
—
—

38
36
34

—
—
—

エッセイ
誌友紹介

唄

ながつたらしい鳥
未明の魚たち

不意の雨

山本まこと
東佐和子
藤維夫

17
15
—
—

広告

あとがき

五十六号

城取真司

山田かん

38
36
34

奥付

裏表紙

第六回九州詩人祭案内

同人名簿

第四三号 一九七六年五月二十五日 発行

作品 カンコロメシ
森の中の鳥

ふしきな そらについて

同人消息 (1)

朝の野

日を歩む
動物詩抄 (2)作品 誌友紹介
小友の漁師
小鳥を飼う
R子の春

受贈詩集

たとえば長江のよう
言葉の天皇

作品

エツセイ 第四十二号合評会の記録
受贈詩誌エツセイ 紀元は二千六百三十六年
被爆三〇周年の八月一〇日
希望の在つた場所

山田かんノート (2)

同人消息 (2)

中里喜昭
今村冬三
高橋真司入江昭三
山田かん
山田かんたけしたしげる
宮原隆之助
山口宏島田とも子
藤維夫
今村冬三横山隆
伊福重一
上滝望觀26 24 21 17 14
35 35 25 23 20 20 16 13 12 12 11 10 93 1
5 2
5 2あとがき
広告 中里喜昭『自壊火山』、中里喜昭『ふたたび歌え』
裏表紙 奥付
*城取真司は本号から高橋真司と表記。

36 36 35

第四四号 一九七六年七月二十五日 発行

作品 同人消息

紺の女
安心院にて
若者と詩と音楽と私

作品

破船—それはある詩のようにな
い
白い尖塔
藁を打つ
百姓志願伊崎周介
伊福重一
入江昭三
今村冬三梁井馨
梁井馨
紅河知沙
梁井馨エツセイ 墓
薄明へ
次郎のたましい
否定の同志
早朝の男
『共感』と民衆情念の集積
高橋真司
藤維夫
山田かん
横山隆
島田とも子
今村冬三
高橋真司17 15 14
18 17 16 15 13 12 11 10 8 7 6 5 5 2 1裏表紙
裏表紙

第四十三号合評会記

入江昭三

誌友名簿
編集部より

エツセイ 飢えにはぐれて

山田かんノート (二)

中里喜昭

受贈詩誌、受贈詩集

同人名簿
あとがき

広告 高橋真司エツセイ集『広島の倫理』、
小国力エツセイ集『孤独と愛』

奥付

第四五号 一九七六年九月二五日 発行

裏表紙裏
裏表紙

誌友名簿
エツセイ
内規

エツセイ
同人名簿
あとがき

今村冬三

25
36
23
36
17
35
15
16

破壊の唄
—破滅しかけている者のために— 平島礼二

高架広場にて
山田かん

次号予告

第四十四号合評会記

山口宏

22
22
22
22
13
14
12

作品	受贈詩誌	作品	受贈詩誌	作品	受贈詩誌	作品	受贈詩集	ハイビスカス物語
島田とも子	島田とも子	藤維夫	藤維夫	梁井馨	梁井馨	悲願	悲願	陰画の夏
上淹望観						褐色の水が青くなるとき		
						Tにおくる十四行詩		
						旅立つTに		
						六月のうた		
						伊福重一		
						横山隆		
						今村冬三		
						今村冬三		
						入江昭三		

10	5	2	1						
—	—	—	—	32	32	31	31	23	19
11	9	8	7	6	4	3	3	—	—

エツセイ	原田正路写真集	第四六号 一九七六年一二月一日 発行	裏表紙裏 裏表紙	25 36 23 36 17 35 15 16
墓と、写真と、芸術と、	*タイトル *写真一二枚 (*一二頁、ノンブル無し)	原田正路写真特集 長崎の異人墓	高橋真司エツセイ集『広島の倫理』、 小国力エツセイ集『孤独と愛』	22 24 22 24 22 22 14 12
原田正路			山田かん	

